

令和7年度第2回千葉県スポーツ推進審議会 議事録

開催日時 令和8年3月23日(月)
午後2時から午後4時まで
開催場所 ホテルプラザ菜の花 3階 菜の花

1 出席者(敬称略)

<委員> (50音順)

笠原 政志、越川 均、佐藤 博紀、花岡 伸和、藤井 和彦、涌井 佐和子

<オブザーバー>

大目 智志、小柴 真岐

<事務局職員>

所 属		職 名	氏 名		
環境生活部スポーツ・文化局		局長	板倉 由紀子		
環境生活部 スポーツ・文化局	生涯スポーツ振興課	課長	小林 雄一		
		副課長	出雲崎 渉		
		企画調整班	班長	近藤 なつみ	
		企画調整班	副主査	萩原 弘幸	
		生涯スポーツ室	室長	國松 健朗	
		生涯スポーツ室	副主査	矢口 周	
		ちばアクアラインマラソン準備室	主幹	森井 優	
	競技スポーツ振興課	課長	岩埜 直史		
		副課長	波多江 美奈子		
		施設・調整班	班長	鴫田 伸一	
		競技スポーツ班	班長	関 秀彰	
		国民スポーツ大会 関東ブロック大会班	班長	今村 篤教	
	健康福祉部	健康づくり支援課	健康ちば推進班	主事	本多 京音
		高齢者福祉課	地域活動推進班	主事	島袋 療太
商工労働部	観光政策課	新たな観光推進室	副主査	スバシ 彰子	
農林水産部	環境農業推進課	食育推進班	主事	鎌田 祐実	
県土整備部	公園緑地課	県立公園管理班	主査	岡野 幸一	
教育庁 企画管理部	教育政策課	政策室	副主幹	飯塚 恵一	
教育庁 教育振興部	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	主査	杉下 卓	
	学習指導課	教育課程指導室	指導主事	石井 知愛子	
	特別支援教育課	教育課程指導室	指導主事	和田 志門	
	保健体育課	課長		佐藤 祐児	
		学校体育班	班長	右崎 英志	
	給食班	主事	藤居 裕典		

2 議題

(1) 報告事項

- ①第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会におけるチームちばの活躍について・・・資料1
- ②「ちばアクアラインマラソン2026」について・・・資料2
- ③令和7年度各種表彰について・・・資料3
- ④令和7年度「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の結果について・・・資料4

(2) 協議事項

- ①令和8年度スポーツ団体に対する補助金の交付について・・・資料5
- ②第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和7年度点検・評価について・・・資料6-1、6-2
- ③次期「千葉県スポーツ推進計画」の骨子（たたき台）について・・・資料7

【配布資料】

- ・資料1 第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会におけるチームちばの活躍について
- ・資料2 「ちばアクアラインマラソン2026」について
- ・資料3 令和7年度各種表彰について
- ・資料4 令和7年度県民の運動・スポーツに関するアンケート調査
- ・資料5 令和8年度スポーツ団体に対する補助金の交付について
- ・資料6-1 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和7年度点検・評価報告書（暫定版）
- ・資料6-2 令和8年度主な体育・スポーツ関連事業について
- ・資料7 次期「千葉県スポーツ推進計画」骨子（たたき台）
- ・参考1 スポーツ基本法、千葉県行政組織条例

3 議事録

【事務局】

それではただ今より、令和7年度第2回千葉県スポーツ推進審議会を開会します。なお、本審議会の委員総数は10名のところ、本日の出席は5名になります。

「参考1」にございます、千葉県行政組織条例の第32条第2項に定める会議の開催について「委員の半数以上の出席」が必要であるという成立要件を充足していますので、成立していることを報告させていただきます。

(補足：報告事項の途中で1名遅れて出席したため、最終的には6名の出席となります)

続きまして、本日出席の千葉県スポーツ推進審議会委員及びオブザーバーの皆様につきましては、お手元の委員名簿及び座席表にて、御確認いただき、御紹介は省略させていただきます。

皆様、本日はよろしくお願いいたします。

続きまして、環境生活部スポーツ・文化局の板倉局長から御挨拶を申し上げます。

【板倉スポーツ・文化局長】

千葉県環境生活部スポーツ・文化局 局長の板倉でございます。

委員の皆様におかれましては、御多用のところ、「令和7年度第2回千葉県スポーツ推進審議会」に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃より、本県スポーツの推進に御支援・御協力をいただいておりますことに、心から御礼を申し上げます。

昨年は、東京で、世界陸上やデフリンピックが開催され、本年は、ミラノ・コルティナで、冬季オリンピック・パラリンピックが開催されました。なお、これら、デフリンピック、オリンピック、パラリンピックに出場した本県ゆかり選手は19名であり、そのうち6名がメダルを獲得しております。

また、今後開催される、大きな大会ですが、9月には愛知県で、アジア競技大会と、アジアパラ競技大会が予定されており、引き続き、スポーツへの関心が非常に高まっていくものと考えております。

千葉県においても、11月に7回目となる「ちばアクアラインマラソン」を開催する予定であり、「する・みる・ささえる・知る」スポーツの推進に一層努めて参ります。

さて、本日の審議会では、主に第13次推進計画の点検・評価と、次期「千葉県スポーツ推進計画」の骨子（たたき台）について御協議いただく予定となっております。

今年度も、6つのリンクと29の評価指標を踏まえて、各取組を進めてきました。それぞれの指標を見ますと、今年度は、「国民スポーツ大会の入賞」の奪還や、「パラスポーツの観戦・体験率」の上昇など、施策の効果が現れている分野もあります。

また、前回9月の審議会において、次期計画の策定に向けて、反映させていくべき観点について御協議いただいたところ、それを踏まえまして、次期計画の基本理念や目指す姿、施策体系の大枠などを示した、骨子（たたき台）を作成いたしました。

詳細は、のちほど、担当課長から御説明させていただきますが、委員の皆様には、次期計画策定に向け、専門的な視点から御指導・御助言を賜りたいと存じます。

本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局】

それでは、議事に移ります。

議長につきましては、越川会長にお願ひいたします。

よろしくお願ひします。

【議長】

それでは、次第に沿って、議事を進行させていただきます。

まず、報告事項について、事務局から説明をお願ひします。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

競技スポーツ振興課長の岩埜です。

「資料1」をご覧ください。国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会におけるチームちばの活躍について御報告いたします。

まず、第79回大会は、冬季大会のスケート競技は岡山県と群馬県、アイスホッケー競技が岡山県、スキー競技会は秋田県、本大会は「わた SHIGA 輝く国スポ 2025」として滋賀県を会場に開催され、本県は総勢568名の選手団を派遣しました。

総合成績につきましては、本県は男女総合成績（天皇杯得点）で1450.5点を獲得し、入賞を奪還し第8位入賞を果たしました。

また、女子総合成績（皇后杯得点）は790点を獲得して3大会連続入賞となる第7位の成績を収めました。

また、競技別成績では、天皇杯得点で13競技（40競技中）、皇后杯得点で9競技（36競技中）が入賞しました。

本県選手の活躍は、次代を担う子どもたちに大きな影響を与え、本県のスポーツの推進に大きく寄与するものです。第80回大会は既に冬季大会が終了し、本大会は青森県で開催されます。引き続き、男女総合成績「天皇杯得点」、女子総合成績「皇后杯得点」とともに8位以内の入賞を目指し、選手強化に取り組んでまいります。

私からの説明は以上です。

【小林生涯スポーツ振興課長】

生涯スポーツ振興課長の小林です。

同じ資料の3ページを御覧ください。

第24回全国障害者スポーツ大会での、本県選手団の活躍について報告いたします。

10月に滋賀県において大会が開催され、本県からは、個人競技では陸上競技、水泳、卓球、フライングディスク、ボウリング、ボッチャの6競技、団体競技ではソフトボールに、総勢125名の選手団を派遣しました。

メダル獲得数は、金メダル50個、銀メダル29個、銅メダル9個で、選手団別の金メダル獲得数では、全国第4位の好成績を収めることができました。

来年度は、国民スポーツ大会と同じ青森県での開催が予定されており、引き続き

選手強化に取り組んでまいります。

次に、「資料2」を御覧ください。

本年11月8日（日）に開催する「ちばアクアラインマラソン2026」について、2月に開催した総会において、ランナーの募集要項を策定しました。

申込方法については、3ページに記載しておりますが、今回から新たに、1番の「ちば県民先行枠」や、8番・9番の学生・女性の参加を促進するための特典付き応援枠を設定し、これまでの抽選方式に変えて、先着順で募集をすることとしました。

なお、「ちば県民先行枠」ですが、募集開始から、「ハーフ」は30分程度、「マラソン」は1時間程度で、定員に達しました。

2番から9番の募集枠については、昨日から募集を開始しており、一般枠の「マラソン」及び「ハーフ」については、既に定員に達しました。

また、資料の6ページを御覧いただき、上段、今大会の目玉にありますように、参加賞Tシャツを2色の選択制にしたほか、女性専用施設の拡充や、フルマラソン後半の難所である「清見台の2段坂」において賞品付きのイベントを実施するなど、誰もが参加したくなるような、魅力的な大会を目指して準備を進めてまいります。

続いて、「資料3」を御覧ください。

令和7年度各種表彰について御報告します。

まず1ページ、「千葉県プロスポーツ等顕彰」の関係ですが、フットサルのFリーグ2024-2025ディビジョンワンにおいて、優勝した「バルドラール浦安フットボールサラ」に「ちば夢チャレンジ殊勲賞」をお贈りしました。

次に3ページ、同じく「プロスポーツ等顕彰」ですが、公式戦ホームゲームに子供たちを無料招待していただく「ちば夢チャレンジ・パスポートプロジェクト」に、平成27年度から10年間継続してご協力いただき、10年間で延べ8万8,400名の子供たちを試合に招待していただくなど、本県のスポーツ推進の取組に、多大な御協力をいただいた「千葉ジェッツふなばし」に「ちば夢チャレンジ功労賞」をお贈りしました。

次に7ページ、「千葉県知事賞」ですが、

「第41回世界新体操選手権大会」において、優勝を果たした日本代表チームの一員である、千葉市出身の田口選手と、昭和学院高校在学の西本選手に「知事賞」をお贈りしました。

次に8ページ、同じく知事賞ですが、第25回夏季デフリンピック競技大会において、メダルを獲得した、空手女子・団体形・金メダルの森選手、バスケットボール女子・金メダルの若松選手、サッカー女子・銀メダルの岩渕選手、高木選手、サッカー男子・銀メダルの瀧澤選手に、それぞれ「知事賞」をお贈りしました。

次に、9ページを御覧ください。

県では、千葉県表彰規則に基づき、本県スポーツの振興に功績のあった個人や団体、また、国内外の各種スポーツ大会で優秀な成績を収めた選手やチームに対して、「体育・スポーツ功労者等顕彰」を行っており、明日、24日（火）午後3時から、千葉県文化会館で顕彰式を開催します。

10ページを御覧ください。

地域スポーツの健全な普及発展に貢献した「生涯スポーツ功労者」につきましては、記載の15名の方を表彰いたします。

次の11ページは、地域スポーツ活動の普及に積極的に取り組んでいる「生涯スポーツ優良団体」として、記載の12団体を表彰いたします。

12ページ以降は、昨年の1月から12月に開催された各種大会で優秀な成績を収めた個人、チームに対する表彰で、優秀スポーツ選手の個人の部は、計152名、うち34名がパラスポーツ部門の選手となっております。

また、19ページから21ページが優秀スポーツチームの表彰で、計25チーム、うち2チームはパラスポーツ部門のチームとなります。

最後の22ページですが、5回連続の受賞となる4名及び今回が10回目の受賞となる1名の選手を特別功労者として表彰します。

次に、「資料4」を御覧ください。

令和7年度「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の結果について御報告します。

2ページの調査の概要ですが、本アンケートは、令和7年9月26日から10月30日までの約1か月間実施し、3,767件の有効回答をいただくことができました。アンケートで集計した数値の一部は、後ほど説明する「令和7年度点検・評価」の基本指標にもなっておりますので、ここでの説明は割愛させていただきます。

報告事項の説明は以上です。

【議長】

ただいま、報告事項4点について、事務局から説明がありました。委員の皆様から、何か御質問や御意見がございましたら、お願いいたします。

【委員】

国スポと全障スポの説明で、どちらも「チームちば」として表記いただいて、非常にありがたいと思っております。このような情報に触れる人の意識が少しずつ変わっていくと思いますので、感謝しております。

【議長】

他にいかがでしょうか。

佐藤委員、ジェッツの表彰について何かございますか。

【委員】

我々は創設15年目であり、10年前から千葉県に協力させていただき、千葉県の主催のもと継続させていただき、たくさんの子どものバスケットボールに触れていただきました。「する・みる・ささえる」というところでは、「見る」だけでなく、運営に携わっていただくなど、様々な方面で実施させていただき、子どもたちがバスケットボールに

たくさん触れるという場を作っていただいたことを改めて感謝申し上げます。

我々はバスケットボールチームを運営していますが、どうしても、我々だけではできないことを、このように千葉県が1つになってできるというのは、我々の強みの1つだと思います。このような取組だけでなく、いろいろな忌憚ない御意見をいただければ、我々ができることを全力的に協力して、もっともっと盛り上げていただきたいと思いますので、引き続き、サポートのほど、よろしく申し上げます。改めて感謝申し上げます。

【議長】

事務局に伺いますが、プロスポーツ等顕彰の「夢チャレンジ殊勲賞」や「功労賞」は、かなり前からやっているものなのでしょうか？

【小林生涯スポーツ振興課長】

「制度の概要」については資料3の5ページに記載しており、令和5年4月に創設した比較的新しい賞であり、「殊勲賞」や「功労賞」等を今まで表彰しております。

【委員】

アクアラインマラソンについてですが、今回で7回目ということで私も2012年から救護で携わせてもらっております。その中で、アスレチックトレーナーが救護に関与しているマラソン大会は、非常にまれで、千葉県では安全安心に対する体制が十分にとられており、ランナーからの評判が高いです。アクアマラソンにおいては、アップダウンが非常に大きく過酷なマラソン大会であるのは有名で、今まで死亡者0というところで、救護体制が盤石であるということは担当されている委員の方々の尽力だと思っております。千葉の救護活動については非常に盤石である、というところを、これからも継続していただけると良い、と思います。

【議長】

私もアクアラインマラソン実行委員会に名を連ねておりますが、今回から女性の優先枠や学生への特典を作って参加しやすくするなど、女性と若者を増やそうという取組を始めるといことで、やはり同じようなことを繰り返してはなかなか発展が望めませんので、いろいろなことを考えていただけていると感心しております。

【議長】

それでは、次に、協議事項に入ります。

初めに、協議事項(1)「令和8年度スポーツ団体に対する補助金の交付について」です。本事項では、私の所属する公益財団法人千葉県スポーツ協会の補助金の件も含まれますので、一度離席いたします。その間の議長については、藤井副会長に申し上げます。

【議長（副会長）】

それでは、協議事項1について、事務局から説明をお願いします。

【小林生涯スポーツ振興課長】

「資料5」を御覧ください。

令和8年度スポーツ団体に対する補助金の交付について、まず、下段の参考の部分ですが、スポーツ基本法第34条に「地方公共団体は、スポーツ団体に対し、その行うスポーツの振興のための事業に関し必要な経費について、その一部を補助することができる」とされており、第35条に「スポーツ団体に対し補助金を交付しようとする場合には、スポーツ推進審議会等の意見を聴かなければならない」とされていることから、令和8年度の各補助金について、御説明させていただきます。

1の「千葉県スポーツ推進委員連合会事業補助金」については、住民に身近な市町村においてスポーツを普及するために、各市町村が委嘱しているスポーツ推進委員の県組織である、「県スポーツ推進委員連合会」の運営に要する経費を助成するもので、令和8年度は、379万4千円の交付を予定しており、職員の給与改定に伴い、30万2千円の増額となっております。

2の「千葉県スポーツ協会事業補助金」については、県スポーツ協会が行う、県民スポーツ大会や指導員養成講習会の開催などの、スポーツ振興のための事業に要する経費を助成するもので、令和8年度は738万3千円の交付を予定しております。

3の「国民スポーツ大会ユニフォーム購入補助金」は、国民スポーツ大会に出場する種目の競技団体に対し、選手や監督のユニフォームを購入する費用を助成するもので、令和8年度は320万7千円の交付を予定しております。

4の「パラスポーツコーディネーター派遣事業補助金」について、令和8年度は、新たに「(仮称)千葉県パラスポーツ情報センター」を設置し、センターの事業として、これまで実施していた「パラスポーツコーディネーター派遣事業」を実施することとしており、情報センターの運営と合わせて委託事業として実施することになりました。補助金ではなくなるため、令和8年度は0円となっております。

5の「パラスポーツ競技団体支援事業補助金」は、パラスポーツの競技人口の増加を図るため、「千葉県障がい者スポーツ協会」を通じて、各パラスポーツ競技団体が実施する体験会等の費用を助成するもので、令和8年度は585万円の交付を予定しており、参加団体の増加に伴い65万円の増額となっております。

6の「障害者競技組織運営費補助金」は、障害者スポーツの振興、普及啓発を図るため、「千葉県障がい者スポーツ協会」に設置した「パラスポーツ強化・支援部会」の運営費を助成するもので、令和8年度は980万円の交付を予定しております。

説明は、以上です。

【議長（副会長）】

事務局から、スポーツ団体に対する補助金について説明がありました。

委員の皆様から、意見をお願いします。

【委員】

インフレがものすごい状況ですので、今後も同じことをするとすると、お金がかなりかかってくると思うので、今回はいいですが、来年度以降は見込まなくてはならない

のではないかとと思われます。

【小林生涯スポーツ振興課長】

予算編成の中で、特に今年度は人件費を見直しまして、一部、人件費の部分が増額となっておりますが、たしかに物価等が高くなっておりますので、補助金の内容につきましても引き続き精査して、必要額を交付できるようにしていきます。

【議長（副会長）】

それでは協議事項（1）については、終了します。議長を越川会長にお戻しします。

【議長】

それでは、協議事項（2）「第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」令和7年度点検・評価」に移ります。リンクごとに説明していただき、協議していきたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

【小林生涯スポーツ振興課長】

「資料6-1」を御覧ください。

令和7年度点検・評価報告書（暫定版）について説明いたします。

時間も限られておりますので、リンクごとの主な指標の達成状況と、主要事業について説明いたします。

5ページを御覧ください。リンクA「子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上」の基本指標A-1「幼児の休日の運動遊び実施率」、休日に1時間以上運動遊びを実施している割合は、令和6年度と比較して、1.1ポイント上昇の60.9%となりました。

「総括」ですが、保護者への啓発・情報発信として、「体を動かすことの重要性を周知する家庭教育リーフレットの配布」や、「運動遊びができる施設・講座情報等のホームページでの発信」を引き続き行ってまいりました。また、指導者の研修や、幼児教育アドバイザー派遣等に継続的に取り組んでいることが、実施率の増加に繋がっているものと考えられます。

次に、8ページを御覧ください。基本指標A-4「運動部活動満足度」は、令和6年度と比較して、中学校は0.7ポイント上昇の79.6%、高等学校は7.4ポイント低下の77.4%となったものの、既に令和8年度目標値を上回っております。

「総括」ですが、専門的な指導力を備えた外部指導者を、県立学校49校に54名派遣するとともに、部活動指導員を公立中学校に138名配置しました。また、公立中学校における地域部活動への段階的な移行については、関係者に丁寧な説明や情報提供を行い、地域と関係者が連携しながら取組を進められるよう、支援してまいります。

続いて、10ページを御覧ください。リンクB「人生を豊かにするスポーツの推進」の基本指標、「成人の週1回程度のスポーツ実施率」は、全体で57.6%となり、令和6年度実績より3.7ポイントの上昇となりました。この数値について、少し詳しく説明させていただきますが、年齢別にみると、18～39歳と、40～59歳は下がっていて、60歳以上も2.7ポイントの増加ですが、なぜ全体が3.7ポイントも上昇しているの

か、という疑問があるかと思えます。

その点について11ページに解説してありますので、11ページを御覧ください。真ん中に構成比という表がありますが、これはアンケート回答者の年齢別の構成比を表しており、令和6年度までは、60歳以上の割合は20%程度でしたが、7年度は30.4%と大きく増えており、60歳以上の回答が、以前と比べて全体に大きく影響しております。

この理由としては、これまでは用紙に記入して回答していただいていたのですが、今年度から回答の利便性を考慮してオンライン回答をできるようにしたところ、結果として59歳以下の方のアンケート回収率が下がってしまい、60歳以上の方は引き続き用紙に記入していただく方が多いので、それ程変わらず、相対的に60歳以上の割合が多くなるという結果となりました。

そのため、令和7年度の全体の実施率と、令和6年度以前の全体の実施率を比較しやすいように、令和4～6年度までの各世代の構成比の平均を基に、令和7年度の成人全体のスポーツ実施率を算出したところ、昨年度より0.3ポイント増の54.2%となりましたので、参考値として記載しております。

「総括」ですが、10月を「スポーツ推進月間」とし、関係団体と連携して、親子を対象とした体験講習会などを実施したほか、岐阜県で開かれた「ねんりんピック」に本県選手を138名派遣するなど、シニアスポーツの推進に努めました。

基本指標であるスポーツ実施率は、60歳以上は前年と比べ上昇しておりますが、働き世代の実施率は前年と同程度の低い水準にとどまっています。アンケート調査において、運動やスポーツの実施が週1回未満である理由は、「仕事や家事が忙しくて時間がないから」が約3割を占めております。このため、令和6年度に作成した、働き盛り世代や子育て世代向けのリーフレットを増刷し、今年度は県内小学校1年生の全家庭に配布し、子育て世代への運動習慣の啓発に努めました。

続いて、12ページを御覧ください。リンクC「誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進」の基本指標、パラスポーツの観戦・体験率ですが、令和6年度と比べ、4.3ポイント増加し、55.4%となりました。

「総括」ですが、昨年度に引き続き、パラアスリートを県内の小中学校18校、特別支援学校12校に派遣して講演会や体験会を実施し、12月8日時点で2,155名の児童生徒が参加しました。また、8月に千葉ポートアリーナで、パラスポーツの体験イベント「パラスポーツフェスタちば」を開催し、511名に参加いただき、11月に野田市で開催した「パラスポーツフェスタとうかつ」では、243名に参加いただきました。特別支援学校でのパラスポーツ教室については、令和6年度の4校から、今年度は6校に拡大して実施しました。

続いて、16ページを御覧ください。リンクD、「スポーツ環境の整備・充実」の基本指標、総合型地域スポーツクラブの関係ですが、認知度は、1.8ポイント増の16.7%、クラブの数は、大多喜町と市川市で新設されたことに伴い、2件増加し、93クラブとなりました。クラブの会員数は、令和7年度については集計中ですが、横ばい傾向が見込まれます。

「総括」ですが、総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、未設置市町村に対する

協力の依頼や、クラブアドバイザーと連携した助言等を行うとともに、既存クラブに対して、クラブマネージャーの養成や、情報交換会の実施など、クラブの活性化に向けた支援を行いました。引き続き、各クラブと連携したイベントを開催するなど、クラブの認知度向上や、会員数の増加に取り組んでまいります。

次に、17ページを御覧ください。リンクE「競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進」の基本指標、国民スポーツ大会の入賞については、先ほどの報告事項で御説明したとおり、第8位となり、入賞を奪還しました。

もう一つの基本指標の、学校等へトップアスリートを派遣し、講演会等を実施した回数は、令和7年度は44回で、累計129回となり、令和8年度の目標である95回を上回りました。引き続き、競技力向上に向け、各種事業に取り組んでまいります。

続いて、18ページを御覧ください。リンクF「スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり」の基本指標、トップ・プロスポーツチームと連携した市町村の割合は、プロスポーツチームの選手やコーチを学校へ派遣する「夢チャレンジかなえ隊」事業を実施したことのある市町村の割合ですが、7.6ポイント上昇の73.6%となりました。

「総括」ですが、トップ・プロスポーツチームと連携し、県内在学の児童・生徒を公式戦に招待する「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」を実施し、今年度は、合計12万1,700名を招待していただきました。また、「ちば夢チャレンジ☆かなえ隊」派遣事業では、今年度、11チームが20校を訪問し、参加した児童・生徒は1,735名でした。

続いて、「資料6-2」を御覧ください。

参考として、令和8年度当初予算記者発表資料の中から、主な体育・スポーツ関連事業について、御説明させていただきます。

リンクAでは、「地域クラブ活動体制整備事業」として、3億8,400万円を計上しており、休日部活動の段階的な地域移行に向けて、受け皿となるスポーツ団体や文化芸術団体等の整備、指導者の確保等に関する助成等を行います。

リンクBでは、新規事業として「シニア向けeスポーツ普及促進事業」200万円を計上しており、シニア向けのeスポーツ出張体験会等を開催します。高齢者でも安全で気軽に楽しめる、太鼓の達人等の体を動かすeスポーツの実施を予定しています。

2ページを御覧ください。リンクCでは、「パラスポーツ振興事業」として、7,868万円を計上しております。主な事業の「2 千葉県パラスポーツ情報センター（仮称）の設置」は新規事業で、専用のポータルサイトを作成し、イベント情報やクラブの紹介など、様々な情報を発信するほか、県民向けの相談窓口を設置します。また、先ほど補助金で説明した、市町村を支援するパラスポーツコーディネーターの派遣も、情報センターの事業として実施していきます。

続いて、リンクDでは、「総合スポーツセンター体育館整備事業」として、5億2,717万7千円を計上しており、現地での建替え工事を進め、令和11年度中の供用開始を予定しています。また、総合スポーツセンターの陸上競技場に大型映像装置を設置するための経費として、9億5千万円を計上しています。

3ページを御覧ください。リンクEでは、「ちばジュニアアカデミー発掘・育成事業」が新規事業で1千万円を計上しており、千葉県から国内外で活躍する選手を輩出するため、

小学生を対象とした運動能力の測定会を実施し、運動能力の優れた児童に対しては、スポーツ体験プログラムなどの支援を実施します。

最後のリンク F では、「ちばアクアラインマラソン開催事業」として、1億2,750万円を計上しており、7回目となる大会を11月8日(日)に開催します。

また、次のページ、4ページの「ゴルフを活用したスポーツ振興事業」は新規事業で、950万円を計上しており、全国で最も多くのゴルフ場を有する本県の特性を活かし、子どものうちから生涯スポーツであるゴルフに親しんでいただけるよう、県内のゴルフ場でファミリー向けゴルフ体験会を開催するとともに、県内の競技団体と連携し、小学校で「スナッグゴルフ」の体験会を実施します。

駆け足の説明で恐縮ですが、説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

【議長】

協議事項(2)について、事務局から説明いただきました。

ここまでで、委員の皆様から御意見をいただきたいと思えます。

【議長】

「幼児期における運動遊びの充実」についてですが、推移を見ますと、順調に伸びております。令和8年度の目標値65%に届くかは分かりませんが、このグラフを見ると、届かないにしても、それに近づいていく数字になるのではないかと思います。

いろいろな取組をしてこのような結果になっていると思いますが、他の事業もこのような推移を辿ってくればありがたいですが、なかなか、このように順調にはいかないのではないかと考えております。この数値が増えていることについて、何か事務局から説明はございますか。

【事務局】

社会的要因として、令和3年度は新型コロナの影響がありましたので、外で自由に遊ばせられないということがあったのではないかと思います。そのあとは段々と、幼稚園の活動も豊かになっていく中で、保護者としても心理的なハードルがなく、外で遊ばせようとなったということもあるのではないかと考えております。

【議長】

体育・スポーツに関わる初期ですから、幼児期から、ずっと伸びていくというのは将来的に見ても非常によい傾向だと思っております。

【委員】

8ページのデータを拝見して、特に高校が令和6年度と比べると、満足度が非常に減少しているということですが、ここの解釈というのは、何かしらの影響がはたらいっているのではないかとこのものはございますか。

あるいは、逆に、令和5年度の水準に戻ったということもあるので、令和6年度が何故高かったのかという考え方もあります。ここは推測の域を出ませんが、いかがでし

ようか。

【佐藤保健体育課長】

御指摘のとおり下がっており、下がっている要因としては前年度がとても高かったということも含めて、明確な理由が見当たらないところでございます。今後、専門家の意見なども聞き、しっかりと分析して、なるべく上昇していくように努めたいと考えております。

【委員】

「総括」の「県立学校49校に54名の外部指導者を派遣した」というのは、継続的な事業という理解でよろしいでしょうか。

【佐藤保健体育課長】

お見込みのとおり継続的な事業でございます。

【委員】

「引き続き」のような表現があった方がいいのではないのでしょうか。

また、県立学校というのは高等学校ということだと思いますが、外部指導者を派遣されて満足度が下がってしまったと、捉えられても困ると思いました。

次に質問ですが、「総括」で「部活動指導員の配置や外部指導者派遣の拡充を図っていく」や、「人材バンクを活用すること」という表現もありますが、バンクの登録の状況や、そこから、実際に部活動指導員や外部指導者をどのくらい登用されているのか、ということがわかれば、今後の可能性の1つとして教えていただきたい。

【佐藤保健体育課長】

まず、人材バンクの状況ですが、数としては順調に伸びており、特に、部活動地域展開等で登録いただき、市町村とマッチングしている数につきましては増えつつある状況です。

ただ、部活動指導員に、この人材バンクからというよりは、どちらかという、部活動地域展開の方に、人材バンクを活用していただいている状況です。

地域クラブの指導者としては127名、部活動指導員としては94名が人材バンクからマッチングということで、少しずつ進んでおります。

【委員】

これを踏まえて、部活動地域展開等を見据えると、例えば、中学校の土日に指導者を出すといっても、実際の部活動の数と、必要な指導者の数を考えると、今、おっしゃった数では全く足りないわけです。実際の数字を見ながら、指導者は見ていく必要があると思いますので、やはり依然として資源は圧倒的に不足しているという認識の中で、捉えていく必要があります。

そして2つ目として、「満足度」は、これからいよいよ、生徒たちが部活動をどのように捉えているのかというのは大事なことであり、デリケートな数字であり、しっかりと

追っていかねばならないものです。前にも申し上げたと思いますが、この数字はこれでよいですが、やはり、4段階で聞いてますので、「とても満足している」と「少し満足している」の違いも含めて追っていく必要があるのではないかと思います。やはり、「少し満足している」は心配な面もありますので、これらも含めて「8割だからみんな満足である」と捉えるのは危険なのではないかと思います。

【議長】

たしかに、数字がこれだけ落ちてしまっているというのは何か原因がありそうだと思います。そこで藤井委員がおっしゃるように「少し満足している」というのは、「普通だけど、どちらかと言うと、少し満足している」程度の答えが、気分によって「満足していない」に変わってしまったのかなど、曖昧な推測しかできませんが、そのようなこともあるのではないかと思います。

問題は聞き方ですよ。

【委員】

4段階で聞いてきておりますから、このままでもいいですが、合わせて集計で終わりでなく、それぞれの数字を押さえるべきと思います。

【議長】

オブザーバーから、中学校の視点から、この数字を見て何かあれば。

【オブザーバー】

今、部活動地域移行が徐々に進んでいる中で、部活動よりは、地域のクラブや帰属しているクラブにシフトチェンジしている子どもたちが、特に小学校6年生から部活動に入らないで、そのまま地域のクラブに入るような状況もある中で、部活動離れというイメージからすると、中学校が79.6%ということで、昨年度よりも上がっているというのは非常にありがたいです。

138名の部活動指導員を県が配置していますが、旭市では10名ほど配置しており、そのうち7名が本校に来て、子どもたちは専門の知識を直接受けることができるので、毎年アンケートを実施しておりますが、その満足度は非常に高く、子どもたちも努力の結果が結びついているというところで効果がある事業であると思っております。今後、地域展開が進むにつれて、このような外部指導員、地域のクラブの向上というところで、セクハラやわいせつといった、いろいろな部分も考慮しながら、子どもたちを育てていくという部分では非常に大切な事業と感じております。

さらに、委員もおっしゃっていましたが、細かなデータがより分かりやすくなると目指すところがはっきりすると改めて、感じました。

【議長】

次に、基本指標Bですが、いかがでしょうか。

【委員】

リーフレット等の作成・配布というところで、その成果は今後になってくると思いますので、是非、このようなリーフレット等がここに生きてきているのか、追跡して今後比較していただきたいです。

また、現実問題として、この目標値というものが、現実的に、これを捉えていいのかというところについては、おそらく国が定めているところに合わせて県も定めていると思いますが、この乖離については目標と言えないのではないかと思います。極端な話ですが、スポーツに例えると、全国大会優勝できるチームではないのに、全国大会優勝を目標にしているというものに近いのではないかと思います。本当に、これを達成しようと思うのであれば、このリーフレットの今後の成果・効果を検証すると同時に、この目標値を本当に目標値として捉えていくのであれば、どのように政策を建てるのかしっかりと考えていかなければならないのではないかと思います。

一方で、どの年代に、千葉県はフォーカスしてやっていき、まずはそこを全体的に上げていくのかというのは、医療費の問題とも関わっていくと思いますので、領域横断的に捉えられると、スポーツをやることで、保険医療費の減少や、定年退職者の活性化等に繋がっていくのではないかと思いますので、現実的などころで目標値を再検討いただくと、よいのではないかと思います。

【委員】

11ページですが、18～39歳、40～59歳というのは少し大雑把すぎると思います。次期計画において、ウェルビーイングなどの話にもなってくると、それぞれのライフステージの段階が異なるので、さすがに18～39歳を1つの括りにできないと思います。比較する上で、この表は続けられればよいですが、それとは別に、せめて10歳刻みぐらいの動向を捉えるということは必要になってくるのではないかと思います。

【議長】

続いて、基本指標Cに移ります。

いかがでしょうか。

【委員】

12ページの総括ですが、「パラスポーツフェスタちば」と、「パラスポーツフェスタとうかつ」ということで2度実施いただけてますが、参加者の中で、障害のある・なしの割合について、もし数字が分かれば、数字が分からないにしても、結構参加されていたかなど分かれば教えてください。

【小林生涯スポーツ振興課長】

数字はとっておりませんが、募集をかけたときに、放課後デイサービスや特別支援学校の方が放課後に行くようなところに声掛けをして、そのような施設からバスや車を出していただいて連れてきていただいているのを見ましたので、2～3割はいたと思いますが、数字としては把握できておりません。ただ、なるべく、そのようなところに声を掛けて

いますので、そのようなところの参加者が増えつつあります。

【委員】

このようなパラスポーツの体験会がメジャーになることは非常によいことですが、メジャーになればなるほど、障害のない人が増えるというケースが多いです。そうすると、障害のある人が参加したくても二の足を踏むということが悪循環としておきがちなので、丁寧に呼びかけないと、なかなか参加してくださらないというのが障害のある方たちの傾向だと思しますので、引き続き着目いただきたい。

【議長】

数値的には、パラの部分は順調に推移していると捉えていいのでしょうか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

今年度はデフリンピック、昨年度はパリのパラリンピック等があり、それらを見た方が増えていると思いますので、これを継続できるようにしたいと考えております。

【議長】

それでは、基本指標Dに移ります。

総合型地域スポーツクラブというのは地域性があり、都市部ではまだ伸びるかもしれませんが、郡部の方がなかなか新しくできないという状況ですが、部活動地域展開とうまく絡んで増えていけばいいのでしょうか、どうでしょうか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

今年、2つ新しく、大多喜町と市川市で総合型地域スポーツクラブが立ち上がりましたが、これは2つとも部活動地域移行の受け皿ということを前提に、立ち上げていただいております、このようなことを新しく考えていただけているのは、部活動地域移行に絡んでということが多くなっております。

【議長】

続いて、基本指標E・Fに移ります。

17ページのトップ・アスリートの派遣回数について、令和7年度は飛躍的に増えていますが、これはそれだけ予算がついたということですか。また、令和8年度はもっとつく予定ですか。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

令和7年度は予算がつかまして、令和8年度は同じくらいを予定しております。

【議長】

令和8年度は予想すると、令和7年度と同じくらいの派遣回数になるということですか。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

そのとおりです。

【議長】

トップ・プロスポーツチームとの連携は、順調に増えているということですか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

こちらについては、「夢チャレンジかなえ隊」を派遣した市町村の数になっており、毎年、20回近く学校を訪問していただいております。どうしてもチームがあるのが、都市部が多いので、なかなか遠くに行っていただく数が少ないですが、徐々に遠いところにも行っていただいて、行ったことのある市町村の割合が段々増えている状況です。

【議長】

千葉ジェッツもこのような取組を実施いただいていると思いますが、何かございますか。

【委員】

「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」での招待や、また、千葉県から依頼のあった中学校に出向いて、中学校の体育の授業で、当チームのアカデミースタッフが教えるということを実施しております。この数値について、試合に行った子どもたちの満足度が高いのか、授業に来てもらった子どもたちの満足度が高いのか気になりました。

【事務局】

事業の感想ですが、学校の先生からは、こういった事業ができて非常に参考になったや、子どもたちがスポーツに関心を持つようになってくれたという前向きな意見が出ております。子どもたちからもプロの選手やコーチたちと触れ合うことができ、本当に楽しかったという感想が集まっております。

【委員】

部活動の満足度と繋がってくるのではないかと考えており、体育の授業には例えばそういった専門的な人たちが行くことによって、伸びているという数値があるのであれば、中学校や高等学校の部活動で満足する子どもたちも増えてくるのかなと思いました。

また、私の子どもが高3と高1ですが、二人ともバスケ部に入っていて、いろいろなコーチの話を聞く場面が多く、部活動を満足する要因は何なのかと考えると、単純に楽しければ上がるというのと、本気でやりたいからこそ、コーチに求める意見等があるのではないかと考えたので、そのようなところと紐づくものがあると思ひ、質問させていただきました。

【議長】

それでは、次に、資料6-2について移ります。

新規事業がありますが、例えば、「シニア向け e スポーツ普及促進事業」、「千葉県パラ

スポーツ情報センター（仮称）の設置」、「ちばジュニアアカデミー発掘・育成事業」、「ゴルフを活用したスポーツ振興事業」等の新しい取り組みですが、このような事業が出てきた考え方について教えてください。

【小林生涯スポーツ振興課長】

まず、リンクBの「シニア向け e スポーツ普及促進事業」ですが、こちらは前回の審議会でも e スポーツがスポーツに含まれるのかという点も含めて御協議いただきましたが、時代の流れで、e スポーツもスポーツと捉えて推進していくことが重要だろうということで、今まではバーチャルスポーツということでバーチャルサイクリングの事業を実施して参りましたが、今後、次の展開ということで、e スポーツ、特に若者は民間で進んでおりますが、高齢者向けの方は公の方で手を差し伸べなければなかなか進んでいけないということで、特に、高齢者向けで太鼓の達人は「ねんりんピック」の競技にもなっているので、まず取り組んでいくのは高齢者からやっっていこうということで、今回、新規として立ち上げさせていただいています。

それから、パラスポーツの方では、「千葉県パラスポーツ情報センター（仮称）」が新規事業となっており、今まで情報発信がなかなか千葉県全体として出来ておりませんでしたので、市町村の情報も含めて県の方で、情報センターということで情報発信し、パラスポーツをやりたいと思った方がここを見れば、千葉県でこういったスポーツをやっているか分かるようにしようということで、情報センターHPをまず立ち上げます。併せて相談対応ということで、電話していただければ、「ここに行けば、このようなスポーツができます」等と、同行支援までは出来ませんが、電話で対応できる範囲で紹介する機能を持たせます。また、今までも実施しておりました、市町村支援としてのパラスポーツコーディネーターを、こちらの事業に統合し、市町村が何かパラスポーツを実施したいと思ったときに、この情報センターからコーディネーターが行き、市町村の支援を行うという形で、総合窓口ということで、今回、パラスポーツ情報センターを新規として立ち上げております。

最後に、「ゴルフを活用したスポーツ振興事業」ですが、千葉県は全国で最もゴルフ場が多く、なおかつ、ゴルフ場でプレイする人数も全国で一番多いということです。ただ、年齢を見ますとかなり高齢者が多く、若者や親子連れでゴルフをやる方が少ないという状況なので、今後も千葉県のゴルフが発展していけるように、ファミリーでゴルフをする体験会と、入口として小学校を訪問してスナッグゴルフという柔らかいボールを使って打つという体験を実施し、なるべくゴルフ人口を増やしていきたいという形で新規事業を立ち上げております。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

「ちばジュニアアカデミー発掘・育成事業」ですが、競技人口の少ない競技は強化をしたくても、なかなか子どもたちがいないため、強化ができないというような競技に絞って、小学生を対象に日頃なかなか体験できない、競技を体験してもらいます。興味を持った子どもたちが中学校に上がったときに、競技団体が行っている千葉県競技力向上推進本部が行っているちばジュニア強化事業に繋げていき、競技人口を増やし、そして、

強化を図っていきます。

【議長】

他に御意見ありますか。

【委員】

大型映像装置設置事業の950,000千円は、何か意図があつてなのでしょうか。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

県総合スポーツセンターの第一陸上競技場に設置するものです。今まで、この大型映像装置がなかったのですが、全国で見ますと、千葉県以外のところはほとんどついているという状況ですので、遅れた形となっておりますが、無事に着工できることになりました。

【委員】

950,000千円かけて、年間で、何かしらのイベントをやっていくというところまでスケジュールを立てているのでしょうか。

【岩埜競技スポーツ振興課長】

陸上競技の大会のときに、走った記録や、映像等を映し出す予定となっております。令和9年に、関東の高校陸上大会と、中学校の陸上大会が予定されておりますので、それに間に合うように設置したいと考えております。

【議長】

他にいかがでしょうか。

【委員】

これまでにないものが新規事業として入ってきており、ユニークでよいと思います。

気になった点として、今回の報告書で「ねんりんピック」のことは触れられているが、この委員会でマスターズのことを触れられたことがなく、おそらく千葉県内には、世界大会レベルのマスターズの方がたくさんいるのに、高齢者を表彰しようという雰囲気がないので、そういうのはいろいろな方に勇気を与えるものなので、今後、検討していただきたいです。

また、パラリンピックのことは触れられているのに、スペシャルオリンピックスについては触れられておらず、県内の子どもたちで日本代表選手になっている方もいると聞いておりますので、今後触れていただきたいと思います。

また、精神障害者スポーツという領域もあり、これも千葉県内でいろいろなアクティビティがされているので、パラスポーツとは違う領域になりますが、今後、これについても触れていただきたいと思います。

【小林生涯スポーツ振興課長】

いろいろなスポーツがあることは承知しておりますが、今まで力を入れて、特に表彰してきたのはオリンピックやパラリンピック、今回はデフリンピックも表彰の対象となっておりますが、どこまで表彰の対象としていくかや、県の政策としてどこまで力を入れていくかについては、今の御意見を参考にさせていただきながら、また検討して参ります。

【議長】

マスターズ大会というのは、競技によって年齢が違いますが、マスターズ大会で優勝したチームを表彰したということはないのでしょうか。

【小林生涯スポーツ振興課長】

今、把握している限りではないです。

【議長】

マスターズは「全国大会」という名称ではあるものの、あまり成績など出てこないと思いますが、検討してください。

【委員】

2つほど質問させていただきますが、先ほどのeスポーツをシニア向けにというところですが、「まずは」という表現を使っておられたので、今後は障害のある子どもたちを対象にされるのでしょうか。もし、対象にされるのであれば、どういった方法を取られるのかというのが、1点目です。

次は、パラスポーツ情報センターですが、小さくないお金なので、どのように使われるのでしょうか。おそらく、施設整備と人件費が主になると思いますが、やはり比較的広い千葉県で展開していくとなると、南房総の方がスポレクセンターまで来るといのはなかなか現実的ではないので、やはり何かしら各地にある、特別支援学校等の拠点を活かす形になると思いますが、施設整備と人件費以外にどれくらいの予算を割けるのか分かればありがたいです。

【小林生涯スポーツ振興課長】

まず、eスポーツにつきまして、これまではバーチャルサイクリングを実施して参りましたが、今後、高齢者向けということで2,000千円予算つけておりますが、eスポーツは多様な効果があると言われておりますので、今、おっしゃっていただいたように、他県では障害者向けのeスポーツを実施しているところもありますので、引き続き研究しながら次の展開を考えていきたいと思っております。

パラスポーツ情報センターの場所につきましては、千葉県障がい者スポーツ協会に委託し、そちらへの人件費ということで入っております。あと、HPを作成する経費も入っておりますが、場所としては県の施設を使いますので、そんなにお金がかからないという状態になっております。HPで紹介する事業については、県で実施している

特別支援学校の事業や、市町村で実施しているパラスポーツの事業、競技団体がそれぞれ実施している事業などを情報集約して、「ここに行けば、こういうものが出来ます」という紹介の役割を考えております。

【委員】

さきほど他の委員からもありましたとおり、障害者といっても多用なので、現在パラスポーツに含まれていない障害のある方々の情報収集というところも含めるとかなり幅広いことになってくると思います。今、スポレクセンターを間借りして、二人でやっていると聞きまして、なかなか広大な千葉県を管轄していくのは大変だろうなと思いますので、その中で取りこぼしと言いますか、ここで諦めてしまうということがなく、現在スポーツに触れていないという方も取り込んでいく・巻き込んでいくというところにも手を伸ばしていただければと思います。

【議長】

それでは、協議事項（３）「次期「千葉県スポーツ推進計画」の骨子（たたき台）について」に移ります。事務局から説明をお願いします。

【小林生涯スポーツ振興課長】

「資料7」を御覧ください。

「次期 千葉県スポーツ推進計画」の策定について説明します。

現行の第13次計画は、計画期間が令和9年3月に終了するため、次期計画を策定する必要がございます。現計画の策定時は、当審議会は教育委員会の所管でしたので、スポーツ・文化局ができてからは初めての計画策定となります。

庁内の検討体制としては、庁内ワーキンググループ会議を開催し、庁内の関係部局と連携して計画案を策定していきます。また、（２）これまでと同様、スポーツ推進審議会でも御審議をいただくことになり、また、（３）スポーツ基本法で、知事がスポーツ推進計画を定める際には、教育委員会の意見を聴くこととされているため、教育委員会会議にも報告し、御意見をいただくこととなります。

（４）は、これまではありませんでしたが、審議会での検討に並行して、県スポーツ協会や県障害者スポーツ協会などの関係団体、また、大学生等に対するヒアリングを実施し、計画に反映していくことを考えています。

続いて2ページを御覧ください。策定スケジュールについては、来年度は審議会を3回開催する予定です。今回の審議会でも、骨子（たたき台）について、委員の皆様から御意見いただき、それを踏まえて、8月頃に開催する令和8年度1回審議会でも骨子案を審議していただく予定です。審議会の2回目は12月頃に開催し、計画本文が入った計画（素案）を御審議いただき、その後、パブリックコメントを実施して、来年の3月頃に開催する3回目の審議会でも、計画（案）を御審議いただくというスケジュールを考えています。

次に、3ページを御覧ください。計画骨子（たたき台）のポイントですが、まず、計画の名称ですが、現行計画は「体育・スポーツ推進計画」となっておりますが、他県の

計画を確認したところ、「体育」と入っているのは千葉県のみで、学校体育も含めてスポーツと称するのが一般的かと思いますので、第14次計画では、「千葉県スポーツ推進計画」としたいと考えております。

次に、「計画の位置づけ」ですが、「スポーツ基本法第10条に定める地方スポーツ推進計画である」ということを明記した上で、条例と、それから県政運営の最上位計画である「総合計画」の趣旨を踏まえ、関連する他の計画との連携を図りながら取り組んでいく、という旨を明記したいと考えています。

それから、「本計画におけるスポーツの考え方」につきまして、「スポーツの範囲」については、前回の審議会でも御議論いただきましたが、これまでと同様としてあります。

「スポーツの意義・価値」という点については、第13次計画では、基本理念で「全ての県民が、スポーツの意義や価値を理解することにより」と書かれていましたが、スポーツの意義や価値は何か、ということが明示されていませんでした。今回のスポーツ基本法の改正でも、前文や基本理念として、「スポーツの果たす役割」や「社会的課題解決への貢献」といった考え方が条文に追加されたので、記載のような形で計画にも反映させていきたいと考えています。

続いて、4ページを御覧ください。「スポーツを取り巻く環境の変化」では、第13次計画策定以降の、千葉県のスポーツを取り巻く環境の変化について記載していきます。

「人口減少・少子高齢化の進展」や「部活動の地域展開の推進」、スポーツの多様化、特にeスポーツが急速に普及している現状、それから、県では、令和6年1月に「千葉県多様性尊重条例」が施行されておりますので、多様性尊重の考え方を踏まえた施策の推進、スポーツ基本法の改正、などについて記載していきたいと考えています。

「計画期間」は、令和9年度から13年度までの5年間となります。

次に、5ページを御覧ください。「基本理念」ですが、第13次計画では、左側の黒ボックス3つの記載となっていたのですが、第14次計画では、本計画を推進する上で、基本となる考え方を、分かりやすく端的に表現したいと考えまして、「全ての県民が日常的にスポーツに親しむことができる、健康で活力ある千葉の実現」としました。

次に「目指す姿」ですが、第13次計画では記載はありませんでしたが、今年度策定した新しい総合計画では、スポーツ分野の目指す姿として、こちらに記載のような表現としておりますので、本計画でも総合計画と同じ「目指す姿」を掲げたいと考えております。

続いて、6ページを御覧ください。本県におけるスポーツの現状ですが、代表的な指標を二つお示ししております。左が、「成人の週1回以上のスポーツ実施率」で、緑色の破線が全国、黄色の実線が千葉県の総合の数値ですが、千葉県は全国平均を上回っているものの、全体的に下落傾向にあり、特に赤線の40代・50代の働き世代が低い傾向にあります。また、60歳以上についても、実施率は他の年代と比べて高いものの、以前と比べると下落傾向にあり、「ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着」が課題となっております。

右は、障害のある人のスポーツ実施率で、全国の数値の推移になります。全体として上昇傾向にありますが、左の成人と比べると約20ポイント低くなっておりますので、引き続き、「障害のある人もスポーツに親しめる環境の整備」が課題となっております。また、

今年度は、当課で「障害者のスポーツ参加促進に関する委託調査」を実施しており、国の調査と同様の手法で千葉県の実施率を調査したところ、7-19歳は黄色の点で45.3%と、全国平均を上回っており、20歳以上は灰色の点で33.5%と、全国平均と同程度の数値となっております。

このスポーツの現状については、計画案を策定する段階では、さらに項目も増やして、充実させてまいります。

最後に、7ページを御覧ください。施策体系となります。

まず、13次計画では「リンク」という表現を使っていましたが、こちらも総合計画と同じ表現で、「基本目標」としたいと考えております。

その上で、13次計画では、リンクによって施策数が多いものと少ないものと、ばらつきがありましたので、14次計画では、各基本目標が3つ位の施策となるように、項目建てを変更しております。これまでは、リンクAで子どもに関する施策がたくさんあり、リンクBの1で、働き盛り・子育て世代、シニアスポーツに触れられていましたが、基本理念で「全ての県民が日常的にスポーツに親しむことができる」ということを掲げましたので、まずは、全ての県民を対象にスポーツ振興を図っていくということを明確にするために、基本目標の1を「ライフステージに応じたスポーツの推進」として、子ども、働き盛り・子育て世代、高齢者という風に、ライフステージ別に項目を建てて整理しております。

これまでのリンクAでは、学校内の取組について多く記載がありましたが、学校内で完結するような内容は極力簡略化して、県民に直接関わるような内容を中心に記載していこうと考えております。

基本目標2では、少し視点を変えて、「スポーツに親しむ機会の創出」として、来年度は新たにパラスポーツ情報センターを設置するなど、県民への情報発信を強化していきますので、「1 スポーツに関する情報発信の強化」、それから様々なスポーツ体験イベントを実施していますので、「2 スポーツを始める機会の提供」、それから3は、「身近な地域でスポーツを楽しむ機会の提供」として、部活動の地域展開についても、この項目に位置づけることを考えています。

リンクCのパラスポーツについては、「1 パラスポーツの推進」という部分の施策が充実してきましたので、基本目標3では、これを二つに分けて、「パラスポーツの理解促進・普及啓発」と、「障害のある人が身近でスポーツに親しめる環境整備」、それから「パラアスリートの競技力向上」の3本建てとしました。

それから、リンクEから、競技力向上部分を抜き出して、基本目標4「世界で活躍するトップアスリートの育成」とし、3つの施策に再構成しています。

リンクDは、基本目標5「スポーツ環境の整備・充実」として、新たに「3 スポーツの安全・安心の確保」という項目を設け、近年課題となっております熱中症対策、スポーツハラスメント対策、スポーツ・インテグリティの強化、などの関係を位置づけたいと考えております。

それから、最後の基本目標6は「スポーツを通じた地域の活性化」として、2つの項目を建て、リンクFの「3 オリパラのレガシー」の関係は、項目は建てずに、オリパラレガシー事業として実施しているフェンシングやサーフィンなどの学校訪問、アーバンスポーツの振興などについては、基本目標の2や、他の項目の中で記載していく予定です。

まずは、たたき台として、このような柱建てをして、それぞれの施策に実際どういった事業が位置付けられるかについて、今後庁内ワーキンググループで検討を進めていきたいと考えております。

説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

【議長】

ただいま、事務局から説明がありました。ここまでで、委員の皆様から御質問や、御意見をいただきたいと思っております。

【委員】

基本目標5の「スポーツの安全・安心の確保」について、コメントさせていただきます。

非常に重要なことであると同時に、1月にスポーツ庁から発表されました、スポーツ中の安全確保検討のためのガイドラインが発表されたことに伴いまして、レクリエーション若しくはパラスポーツも含めたスポーツをする全ての人と、あとは大会関係者・運営者などの全ての人が安全に向けて従事すること、チェックリストも発信されまして、正しく国としても安全対策について非常に力を入れていくようになってきておりますので、それに合わせて施策を考えるということは非常に重要であると感じました。

その中で、地域部活動展開も絡むと思いますが、学校現場で言えば、安全管理に関わる方は養護教諭並びに、教頭をはじめとした上層部の方であり、地域部活動展開になると、そのような方は現段階で定められておりません。国としても地域部活動展開の活性化、先ほどまでの議論・報告においても地域部活動展開が出てきた中で、指導者の充実というものがあると思いますが、プラス安全管理に従事する人が誰なのかというところも県として考えていく必要があります。

スポーツ庁のガイドラインの会議に私も参加していた中で、こんなに指導者に求められる課題が多すぎると、指導者が全て担うのは難しいのではないかとということもあり、ガイドラインの中にそのような専門家との連携を、といった文言が加えられたのが今回の特徴になってきていますので、そうなると県としても専門家との連携などはどのようにこの計画に入れ込むのかどうか検討する必要があるのではないかと思います。

その中で、今年、国スポの関東ブロック大会が千葉県で開催され、暑熱対策として専門家を配置することが県の中でもあり、さらに来年はインターハイが開催され、インターハイの救護要項の中にも、今まで医師・看護師だけであったところに安全管理専門家も配置する動きがあります。そうなると、千葉県についてはすでに大会規模ではありますが、専門職の連携というものがなされているので、他の都道府県よりもこのような形をトップランナーとして示せるのではないかと思います。このような今までの経験を踏まえて、地域部活動展開並びに、それ以外のものも含めて安全管理について千葉県モデルなどを、これを機に示してもらえると、非常によろしいのではないかと感じました。

【議長】

他にいかがでしょうか。

【委員】

点検・評価の報告も、予算に関しても是非パラスポーツに関して続けていただきたいと思います。また、たたき台についても、それを具現化していただけたということが分かりましたので、計画そのものには特に異論ございませんが、実際にやるときの考え方という話になりますが、どうしてもインクルーシブというと、多数派に少数派を混ぜるといった感覚があるかもしれませんが、そうではなく、逆転の発想もありうると思います。障害のある方がたくさんいるところに健常者が入るとするのも非常に大切なことです。

エピソードトークとなりますが、先日、一緒に教育委員をやらせていただいている千葉リハの医師の方が、インクルーシブなスポーツの現場を見てみたいとのことだったので、千葉で活動している車いすハンドボールの練習会に来ていただきました。最初は立っただけでしたが、私が車いすに乗って見たらと言って、乗っていただきました。立っただけのときは車いすの子どもたちは近寄って来なかったのですが、車いすに乗った途端、近寄って来て、車いすのこぎ方を教えるんですね。おそらく、千葉リハで仕事されていても、このような経験はされていないと思いますが、非常に驚かれています、新鮮な体験をされたようです。インクルーシブという形の、数字的に今までと違う、カルチャーショックと言いますか、気づきと言いますか、そういったものを与えることも可能だと思います。なので、さきほども東葛のイベント等で割合はどうなのでしょうかと、お話しをさせていただいたのですが、大きなイベントですと割合をコントロールするのは難しいと思いますが、特別支援学校で普通校の子どもたちが来てというようになると、割合をコントロールすることは可能だと思いますので、あえて、特別支援学校に来る普通校の子どもたちの数を減らして、今までは多数派だった子どもたちが少数派になるという経験も非常に重要だと思いますので、実際に実行していく段階で、多数派と少数派の割合をコントロールしてみるということも重要だと思いますので、取り入れていただきたいと考えております。どうしても普通校の子どもが何人、特別支援学校に行ったかのような数の多さで計ろうとすると、そこが崩れるので、一人ひとりの気づきというところに着目していただきたいというところです。

【議長】

パラスポーツについて、オブザーバーから御意見あればお願いします。

【オブザーバー】

先程の逆転の発想の話をもつて、実際に特別支援学校の生徒の所へ、大勢の普通校の生徒が来ることが多くあります。その意義は大いにありますが、そういう視点だけではなく、多数派・少数派が逆転するように、その割合をコントロールすることで、一人ひとりの気づきがあるのだな、私も気づかされました。

【委員】

3点ほど申し上げます。まず1つ目は、次期計画の基本目標1で現計画のリンクA・Bが合体し「ライフステージに応じたスポーツの推進」という所は理解できますが、基本目標2の「スポーツに親しむ機会の創出」という新しい目標については、各ライフステージにも関係しており、どういう位置付けなのかという気はしています。また、旧リンクとの関係でいえば、リンクD「スポーツ環境の整備」というのは、基本的には土台になるような概念であり、今回のたたき台では、基本目標5としていますが、例えばリンクDにある総合型クラブの支援については、基本目標2があるならそちらに入ると思われるので、整理が必要かな、という印象です。

2つ目は、今後のことを考えると、「ウェルビーイング」、豊かな人生のために生活全体を取り込んで、スポーツがどう効いて来るのかというものを、もう少し強調できないかということです。SDGs やウェルビーイングも取り入れた「SWGs」という次なる概念もありますが、「持続可能なスポーツ環境」というものが、次の計画には出てくるべきというふうに思います。それらが、基本目標の土台なのか、基本目標を囲む形になるのかはわかりませんが、キーコンセプトとして入ってくるべきだと思います。

3つ目は、国全体の政策の方向からすると、スポーツの価値というものは「スポーツ自体がもたらす価値」と、「スポーツがスポーツ以外の世界に対してもたらす価値」だと思います。ですので、次期計画の中では、「スポーツに携わる人間にもたらされる価値」と、「スポーツが色々な地域の生活課題や社会問題に対し、貢献し得るような価値」を整理して入れるべきではないかと思います。そういう意味では、少し未来を見据えた形で更に検討される必要があると思います。

【議長】

他にいかがでしょうか。では、私からもいいですか。

計画案の「スポーツを取り巻く環境の変化」ということで、少子高齢化というのは非常に問題であると思っています。少子高齢化で、高齢者がこれから増加するので高齢者の健康寿命を延ばすために施策を打っていくのが大事になるのではないかと。また、子どもの減少で困るのがスポーツ団体になります。大半の団体というのは、子どもの登録費や加盟費が運営基盤となっています。子どもが少なくなっても実施する大会は変わらず、各団体の努力だけで運営していくというのは心配です。国スポ強化支援ということで競技団体に対し支援はありますが、運営するための支援というのも、私としては必要かと思っています。

【委員】

国の計画でも「する・みる・ささえる」「集まる・つながる」といった動詞・形容詞での書きぶりが増えていますが、私としては「スポーツの価値」の中身をしっかり説明しなければいけないのではないかと思います。ウェルビーイングはわかりやすい言葉ですが、そういったスポーツとのかかわりで自分の心や身体に起きる効果やスポーツとのかかわりで社会にもたらされる効果について、きちんと計画冒頭には書かないと、県民の方には届かないのかなと思います。国や自治体の政策で「スポーツの価値」と言いますが、実際に県のアンケートでスポーツ実施率やスポーツとのかかわり方などを見ると、ウォーキングや体操等と個人の健

康づくりのためにやっている、という認識になります。なので、「スポーツの価値」について、丁寧の説明された計画になれば非常に素晴らしいな、と思います。

【委員】

委員長や各委員のお話を聞いていて、庁内ワーキンググループで検討して、審議会に持ち込んでいると思いますが、改めて膨大な量の中で精査するのが非常に大変だなと思っています。時代の変化や、スポーツに関する情報も非常に多岐に渡るので、庁内ワーキンググループの中に、有識者を入れ検討することも場合によっては必要ではないか、と思います。意見交換を求めやすいような環境づくりをすれば、より良い計画が立てやすくなるのではないか、と思いました。

【議長】

ちょうど、時間になりましたので、以上をもって、議長の任を解かせていただきます。進行を事務局にお返しします。

【事務局】

越川会長、長時間にわたり進行いただき、ありがとうございました。

委員の皆様におかれましては、貴重な御意見いただきましてありがとうございました。

本日いただきました御意見等を踏まえまして、引き続き計画を推進していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

以上をもちまして、令和7年度第2回千葉県スポーツ推進審議会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。